

焼けおちた仏の像にさくら舞う

児玉さざえ堂より

さざえ堂に魅せられて、会津に行き、上野(こうづけ)国太田に行き、そして此の程は武蔵国児玉に旅をします。

児玉百体観音さざえ堂と其の内陣を拝観させていただきます。

さらに、小山川沿いに咲く千本桜の土手上を歩きます。

約一里の桜散歩を楽しみたいと思います。

平成29年4月9日実施
当日は小雨の中を栄螺堂から児玉駅迄歩きました。

市民マラソンが行われていました。ランナーは雨にも関わらず無心に走っていました。

思わず声援をおくらずにはいられませんでした。「頑張れ」私達も・・・。



成身院(じょうしんいん)境内の「百体観音栄螺堂」

児玉百体観音堂、栄螺堂..

さざえ堂建築様式で、外観は二階建てですが、内部は三層の回廊造りとなっています。回廊は栄螺堂のように回りながら上り、下りてきます。さざえ堂

外観は二階建てですが、内部は三階造りの、からくりを思わせる建造構想が特徴です。

江戸時代に、本所に三匠堂(さんしょうどう)として初めて建立されましたが、焼失し現存していません、現存する由緒ある「さざえ堂」は、全国に5ヶ堂あります。

国指定重要文化財としては、福島県会津飯盛山の三匠堂です、この内部は、ひたすら三階に登り、降りて来るのですが、上がり下りが別の通路となっているので対向者に対面することが無い構造になっ

ています。ただ、太田、児玉、取手の栄螺堂との大きな違いねじれ建築は三匠堂だけです。

この特徴は一階層に対して二階が、ねじれた構造で建てられている様です。

「天高し ピサの斜塔と さざえ堂」

成瀬桜桃子(なるせおうとうし) 飯盛山より。

茨城県取手市の三世堂は、本所五百羅漢寺三匠堂が焼失した現在では、日本で最古のさざえ堂となりました、県指定重要文化財です。

昭和時代まで一般公開していなかった為、保存状態が極めて良く、内部には百観音が古来のままの姿で拝観することが出来ます。

但し、御開帳は年一度4月18日だけです、保存手段としては喜ばしいことです。

群馬県太田市のさざえ堂、堂の大きさでは、一番でしょう。常時拝観可能です。

埼玉県児玉のさざえ堂、太田市のさざえ堂に似た建築様式です。事前連絡が必要。

青森県弘前市の六角堂、現存していますが、未拝観の為に、所見は控えます。

平等山成身院(じょうしんいん)、

足利持氏開基、禅密兼学の元昭大和尚の開山。

京都仁和寺の元末寺でした、百二十ヶ寺を統管していました。

ご本尊、大日如来、境内に、唐銅大日如来座像と弘法大師立像があります。

古老達の言い伝え。 >>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

天明三年(1783)7月8日、浅間山の大噴火で、部落

は熱泥で埋没、利根川は多くの死骸でうずめられま
した。

成身院七十一世元映和尚は、万霊回向のため利根
の川辺に壇を築き、法華経一万部を誦誦して冥福を
祈ったそうです。その後、万霊の菩提を弔うために
観音尊像百体を建立する悲願を決意して、江戸へ旅
立ち行脚したのでした。

安置された百体観音像の中には「施主 吉原仲町
講中」「施主 新吉原万人講中」と、遊女達が建立し
た仏像があります、飢餓の時世でも仏心への思いが
伺われます、その数三千余人であったと言われてい
ます。

元映和尚、享年六十四、文化元年(1804)入定。
明治二十一年三月二十七日、百体観音堂の火災に
よって、再度、観音像建立。

更に、大正八年の秋祭りで、花火によって再度焼
失しました、百体観音は再再度の建立により、現在
に至っております。

VVVVVVVV上人大悲の御心で 七日夜の川施餓鬼



成身院の本堂は栄螺堂のある
山の麓にあります。
本堂の更に 100m 先に山門が
建ち仁王像が屋根上の鯪と共に見張っています。

さざえ堂へはなだらかな坂道を十分程歩きますが、
車道もあるのでマイカーで行く事もできます。

山道の途中に、4月と9月末に開花する四季桜が咲
きます。年に二度も咲く桜です、寒桜では無いよう
です、年間に二度咲く桜は、近江や尾張にある桜の
ようですが、東日本では、見掛けない品種であると、
誰とも知れぬ老婦人が説明していました。

四季桜を見ながら坂を上ると、墓地が見えてき
ます。歴代の住職の墓である、卵墓に混ざって、宝
塔が連なっています。十基程はあるでしょうか、成
身院の歴史は、広い伽藍と歴代の墓石から、其の偉
大であった寺院であったことが伺えます。

百体観音堂は、児玉三十三観音霊場の第一番札所
となっております。

一階は、秩父三十四霊場。二階は、板東三十三霊場。
三階は、四国三十三観音霊場で日本百霊場観音が祀
られております。

さざえ堂の正面にあります、鯪口は日本最大の太
きさを誇るもので、直径 1.8m 重量 800 kg もあり、
音もそれなりに低音の重厚さを感じました。

・下総国取手のさざえ堂ファンより。

川施餓鬼(かわ せがき)とは・・・

施餓鬼は、餓鬼に苦しんで災いをなす鬼衆や無縁
の亡者の霊に飲食を施し、仏に供養することによっ
て餓鬼を救済し、自身も長寿することを願う仏事を
いいます。

特に川辺で死者の霊を弔う施餓鬼を川施餓鬼とい

います。

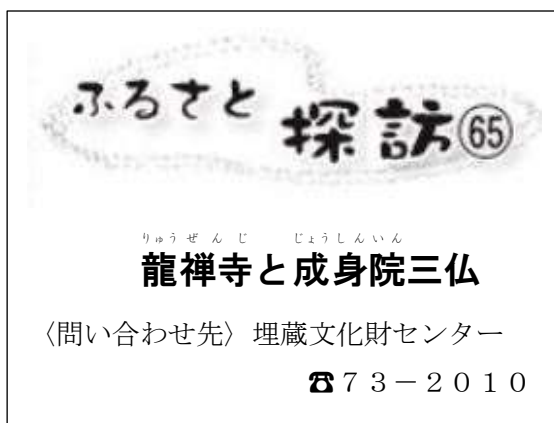
水死者の法名を記した経木(ききょうぎ)や供物(くも
つ)などを川に流します。

近頃は、盆行事などで精霊(しょうりょう)流しを
行う所が多くなりました、霊者を送る行事なので、
本来の意味とは多少違うようにも感じますが、伝統
として忘れないでもらいたいです。

児玉の児玉瓦は、強度耐震防水性に優れ、鎌倉時代
からの歴史があります。



日本最大の鯪口(わにくち)寛永七年(1630)作者不



前回取り上げた中内唯一の国指定重要文化財の龍禅寺三仏堂と、埼玉県本庄市児玉町にある成身院の不思議なつながりを、今回は紹介します。

成身院は古い由緒を持つお寺ですが、何度も火災に遭い、また住職がいなかったりもあって、創建時の詳しいことは、分からなくなっているようです。

現代成身院の境内には百体観音堂と呼ばれるお堂があり、本庄市の指定文化財になっています。

百体観音堂は3階建てで、内部は一方通行に順路が設定され、上り専用と下り専用の階段がある「さざえ堂」になっています。取手市内長禅寺の三世堂茨城県指定文化財と共に、全国に5棟しか残っていない「栄螺堂」の一つです。

この百体観音堂の2階に、釈迦如来・阿弥陀如来・薬師如来の三体の仏像(本庄市指定文化財)が、安置されています(写真)。



この内、阿弥陀如来像の胎内(仏像の内側)には、応永12年(1405)10月に「総州下総国北相馬郡黒崎郷米井村」の龍禅寺が、この仏像を制作したと書かれています。「米井村」は、取手市内米ノ井と考えると、間違いないでしょう。また、応永12年から15年たった天文15年(1546)に、修理されたことも書かれています。

釈迦如来像の胎内にも、応永12年から15年たった天文15年に、修理されたと書かれていて、釈迦如来像も龍禅寺の仏像として制作されたものが、何らかの事情で、成身院に移されたと考えられます。

さらに龍禅寺本堂の十一面観音像の胎内には、明德3年(1392)3月15日に、人仏師了阿弥陀仏が制作したと書かれています。なんと成身院の阿弥陀如来像の胎内にも、作者は仏師了阿弥陀と書かれ、龍禅寺の十一面観音像と、成身院の阿弥陀如来像・釈迦如来像の作者は、同一人物といえます。

龍禅寺の仏像が成身院に移された理由を知りたいところですが、残念なことが、残念ながら今となっては分かりません。

塙保己一(はなわほきいち)記念館

立ち寄りませんが、江戸時代盲目の国学者塙保己一の生誕の地であるので記念館があります。

塙保己一、延享二年端午の節句日(1746)児玉の百姓宇兵衛の子として嫡男、七歳の時に眼病で失明してしまいます。十五才で江戸の雨富検校(あがとみけんこう)の才量と援助により学問の道に進進することが出来ました。

保己一24才の時、加茂真淵(かもまぶち)の門下となり「六国史」を学び、保己一の一生に関わりをもち、生涯を捧げる結果となるのでした。

38才で検校(旗本と同格の位)となり、水戸藩の依頼により「参考源平盛衰記」、「大日本史」の校正を行いました。更に、国学の研究の為に、和学講談所を設立しました。

保己一の功績は、生涯をかけた「群書類従(ぐんしよるいじゆう)」であります。後世に残さなければならずと自らの使命感によって、古代文献の校正と分類を編纂し刊行しました。群書類従は既にご存知と思われませんが、全約一千巻という、日本最大の代表書物として諸外国にも紹介されています。

ヘレン・ケラーの来日などに、保己一の功績の一端が伺えるのも、盲目故の偉人に対する尊敬の念があったと伝えられています。

群書類従家系部に「下総国新木村住人二相馬藏人在アリ」とあります、相馬一族の藏人(くろうど、蔵を守り管理する役人)が居た。相馬霊場七十七番で既に紹介しています、

新木城跡の城主で「東国戦実録」記の田口内蔵

之助「雁金山の合戦」は取手の地名となった大鹿の砦城主の引合い合戦の情景を描写した書物です。

般若心経巻数張は、二百二万回繰り返し、経典を暗記する手法帳で、小さな自筆の携帯手帳でした、空海が修行道具とした「虚空蔵菩薩求聞持法」に通じる暗記手法に同。

享年七十六、文政四年九月十二日没。

群書類従続編は、未完でしたが、現在、数千巻にのぼる書物として完成しております。

渋谷道玄坂の塙研究所に、群書類従の版木が残されています。

保己一の旧宅は、現在でも居住しておられる為に拝観は出来ませんが、児玉城跡である桜の城山公園内に、塙保己一記念館が佇んでおります、拝観無料。



埼玉県指定文化財

競進社(きょうしんしゃ) **模範蚕室**(さんしつ)

〒八高線児玉駅から3分の所にあります。

競進社は、このほど世界文化遺産に登録された「高山社跡」の高山社と深い関係にあり、競進社を創始した木村九蔵は、高山社を創始した高山長五郎の弟にあたります。長五郎は「清温育」、九蔵は「一派温暖育」という蚕の飼育法を考案しており、両者は切磋琢磨しながら近代日本の養蚕業の進展に大きな役割を果たしました。

高山村(現藤岡市)の高山家から児玉郡新宿村の木村家に養子に入った九蔵は、飼育法や新蚕種を普及させるため、明治10年に賛同する若者たちと養蚕改良競進組を結成し、明治17年にはその組織を拡大し、児玉町に出張所と伝習所を設置し、その中に実習施設として現在も残っている「競進社模範蚕室」を造りました。明治27年のことです。九蔵は、明治31年に54歳で亡くなっていますが、その前年には、現在の児玉白楊高校の前身となる競進社蚕業研究所を設置し、児玉白楊高校の校祖と呼ばれています。

高山社も高山組から高山社(明治17年)、高山社蚕業学校(明治34年)へと変遷し競進社と同じような歩みをしています。

世界遺産富岡製糸場と本庄の繭(まゆ)市場

「旧本庄商業銀行煉瓦倉庫」(国登録有形文化財)は、日本屈指の繭市場を本庄の面影を今に伝える貴重な建造物です。

明治5年の富岡製糸場設立に当たり、工場長の尾高惇忠(渋沢栄一の義兄)は、当時の本庄宿の有力

者諸井泉右衛門らに繭の買い入れを依頼し、以降本庄は、北関東のみならず日本屈指の繭の集散地へと成長して行きます。

明治27年には、この地初の銀行「本庄商業銀行」が設立され、29年には、取引や融資の担保となる繭を貯蔵する煉瓦倉庫が建設されました。これが現在も中山道に残っている「旧本庄商業銀行煉瓦倉庫」です。



鎌倉街道上道(かみつみち)の児玉町部分地図、



「上道」は鎌倉を出た後、境川沿いを北上し多摩丘陵を越え武蔵国府(府中)に至り、その後武蔵野台地から比企丘陵をぬけ、群馬県の藤岡に入り高崎付近に出ます。その後、信濃方面と越後方面へと向かったルートです。児玉では熊野神社方面の上道と町役場方面の上杉道に稲荷社で分岐します。小山川の土手には「**児玉千本桜**」の老桜が咲き乱れ見事な景観を満喫出来ます、勿論歩くべきです。

